

六
の
聲

J
O
X
K

先生、お無沙汰致しました。

四月五月は夢中で過ぎて、漸くホツと一息さいふ所でございます。

四十人近いお子さんのお名前はなかく二三日では覚えられませんでした。百に餘る園児全體の名前はまだ覚え切れない有様です。「先生お早う」を飛びついて來る子は本當に可愛らしく抱きしめてやりたくありません。

なだめても、すかしても、泣きやまないで、引掻いたり、蹴つたりして、こちらが泣かされさうになつたお子さんも今では元氣に遊ぶ様になりましたが、毎朝心配で、御機嫌いかゞこまづ顔色を探る様次第でございます。

「さくら／＼彌生の空を」を、輪を造りながら、ボンヤリ立つてゐるお子さんや、入りたさうにもじ／＼してゐるお子さんを一人づゝ殖して次第に大きくなつてゆく輪を氣持よく廻つてゐるこ、中には誘ふに逃げ出してしまふ子もあ

つて淋しい氣が致します。

誘ひ方が下手なのでせうか、誠意が足りないのか、自分では一生懸命の積りで居りますが、……お子さんの性質の故でせうか。

ふみ砂場の側にボンヤリ立つてゐるお子さん、ブランコの動きをいつまでも眺めてゐるお子さんを見てハツと致します。

何時か先生の仰有つた、手のかゝらない、それでゐて飛びついても來ない種類のお子さんです。本當にさうかするさ一日も二日も口をきかずに、或ひは氣持の觸れ合ふ折もなく過ぎてしまつたのではないかと思はれます。

愛情の表現に依つて親しみが増されるさ仰有いましたのを思出します。技巧を用ふるさいふ語弊があるけれど、たゞ愛情を持つてゐる丈ではいけないさ仰有いましたね。

「一人くゞ話合ふ折がなかつたら、通りすがりに、名を呼ぶ丈でもいゝし可愛いわつべたに軽く觸れてニッコリ笑ふ丈でもないゝ、又一寸頭を撫でゝみてごらんさい。：子供もきつこうれしさうに笑ひますよ」こ仰有つたのを思ひ出して、ちつこも笑はないお子さんの頭を撫でたら、いや！つこいはん許りに頭を振られて、ニッコリしようこ思つた笑顔を自分でこう處理した事でせう、きつこ泣笑ひの様な表情になつたのでせうこ思出しても冷汗が出ます。全く、何をするにも、工夫と努力よこ仰有つたこごが一々が身にしみて思出されます。

「仕事は勿論大切だけれど健康と境遇の許す範囲で」……ここれも先生の口癖の一つとして耳に残つて居ります。本當に、毎日々々夢中になつて、朝は早く家を飛び出してしまひ、夕方は晩くなつて歸り、夜は疲れて何をする元氣もなく床にもぐつてしまふ其日々々々でございました。

家事の手傳ひはおろそかになり、手紙の返事もついそのまゝになり、洗濯物は山さたまる様になつて、はじめの中は、「さぞつかれる事でせう」……こいたはつてくれた誰彼もこの頃では「そんなに明けても暮れても幼稚園々々々取りつかれた様になつて體を悪くしたらごうするのだ、あなたはそれでいゝとしても側の人のこごも考へたら……ここいはれる様になりました、ついうかゞこ過した事を反

省させられて居ります。

保母であると同時に、娘であつたのだこ改めて、思つたりして居ります。

はじめで、責任のあると同時に、自由な立場に置かれて、あれもこれもしてみた、又何をするのも心配な様な氣が致します。

何をきいても、返事もろくに出来ない様なお子さんが、自由畫の時、素晴らしい内容の豊かなものを描いたり、ごんなに上手に出来るだらうこ自由遊びの動作から推して考へてゐたお子さんが、何にも描けないこいつてクレオンを放り出したりするのを意外に感じて居りましたが、靜に考へてみますと、意外に感じた自分の觀方が足りないのだこいふこごがだんくゞに解つてまゐりました。

それから、先生がよく仰有つていらつしやいましたね、「皆が、世間が子供をいたはり過ぎるこいふより正しくいたはらない。本當の親切が足りない……。」

老人は寒からうこいつて無暗に着せたがるし、實際家でない教育者は何かこいへば幼稚園の子供には無理だらうくゞ、一概に出来ないこごにきめてしまふ傾向があるけれど、やらせてみれば無理のない程度にしても相當やるものだ……。」

たつた二ヶ月の経験者としてもうなづけるこごでござい

ます。

同時にまたこんなことはわけなく出来るだらうと思ふに
案外、こちらの思ふ様に動いてくれないのでこれはやはり
無理なのかしらと思つてよく考へてみますと、する事は無
理ではなくて、私のやり方に無理があつたことを悟り、つ
くづく子供の扱ひには、最大の準備と細心の注意が必要な
ものださ感ぜさせられました。

昨日、あるお子さんのお家からこんな手紙がまゐりまし
た。

大體の意味は、自分の所では小學校へ入るまで、字を數
へないで置かうと思ふのに幼稚園へ上つたら、すぐ字を教
へてくれさいふので、何故かさいふたら、他の子は自分で
名前もかけるし、繪本の字も讀むのに自分はかけないし、
讀めないから困る、さいふが一體幼稚園ではもう文字を教
へてゐるのか、さにかくうちの子には絶対に教へないで貰
ひたい。」

さいふ意味なのでございます。

實習に伺つて居りました時、

「幼稚園に折角入學せしものなれば、少くも二年程度の讀
方算術を御教へ下されたく……」

さいふ註文が來たに先生が苦笑して居られたのを思出し
ました。

何故文字さいふものに對しては考へ方がかうも六ヶしい
のでございませう。

それからこの月に入つてからそろ／＼お母様の苦情を聞
かされます。

「入園するまで、馬鹿なさいふ言葉を使つたことがない
のに、近頃馬鹿野郎なさいふこゝを覺えて困る、御近所
に對しても恥かしいから氣をつけて下さい」

「幼稚園で大きい人にいぢめられないかと思ふのですが、
今までいぢめたこゝのない妹をいぢめる様になりました……」

「○○さんがいぢ悪したから幼稚園へゆくのがいやださ
いひますから」「△△さんが押したから、いやださいふの
で、老人がいやなものは無理に行かせては可哀想だからや
めさせろと申しますので……」

等々、何でも聞かせて貰ふのは大變參考になつてよいの
ですが、押されたからやめるさいふのでは集團生活さいふ
ものがまだ／＼理解されてゐないこゝを思はせられます。

我子丈が無事平穩に過してゆくこゝを願つてゐる親が
相當に多いのでございませう。

それから一つ困りましたのは缺を使はせましたら、誰か
か女の子の髪を切つたさいふこゝで……

「誰かさいふこゝで……では誠に、無責任の様な言ひ

方ですが事實御承知の様に四十名近い年少組を預つて居ります。一寸々氣をつけて居られないのでございます。知らないで居りましたら髪の毛を切られた女の子が（二人或は外にもまだだまつてゐる人もあるかと思ひますが）あつたのでございます。

年少組に缺を使はせるのは早過ぎたのでございませうか。幸にまだ怪我はないのですが考へるごきんなごきを仕出されるかご恐ろしくなつてまゐります。

體格検査を致しました時には驚かされました。

豫告してあつたのに、ボタンの一つもついてないシャツ、ブーンと臭ふ様な下着を着せてよこします。それでお母様はさいへば紅く白く塗りたてゝ居ります。

オヤ／＼さいふ程の厚着、そんなのに限つて中から現れるのは、青い皮膚に骨が浮いて居ります。これは、先生には申上げるまでもなく御存じの事でございますが、それもこれも今はみんな、自分の責任の様な氣がして、お母さんにあゝいはなければならぬ、おちいさんにも話をして上げたいごやきもきしてしまひます。

お辨當のおかづを眺めても、考へさせられ、云ひ度いことが多過ぎて一そ眼をつぶつて見ないごこにしたら氣が樂だらうなごゝ卑怯なごこさへ考へてしまひます。

それから、遂ひ四五日前ですが、こゝういふことを言ふお父さんがありました。まだ二ヶ月しか立たないのに、家の

子供はごうでせうかご聞かれますから、その御子さんの何の特色もないが、おさなしい良くもなし悪くもなし云ふ状態ですから、先づ無難に思つて、よろしうございませう。ごお返事を致しましたら、そのお父さんは我が意を得たり。ご言はんばかりに、

「うちの子は實際いゝ子です。近所からも苦情を言はれたごこはないし、家でも手がかゝらないです。全くうちの子には幼稚園ご言ふものは必要がないと思つてゐるのです。でも折角入つたんだから續けて見様ご家内ご話し合つてゐます。」

ご、ごう／＼として話されました。このお父さんなごは、相當に幼稚園ご云ふものを理解出来るインテリ層の方だと思つてゐましたのに、この御挨拶を受けましたのがつかり致しました。このお父さんにしても、幼稚園の子供同志ご言ふ環境や、保母の心の中に計畫し期待してゐる教育意識ご云ふやうなごこなきは夢にも考へては下さらないのでございませうものね。

かうして久々で先生のお顔を思ひ浮べ乍ら御報告やら、悩みやら申上げて居りますご、果しがない程でございませうが、また、「まだ起きてゐるのか」さいはれさうでございませうから今日はこれで失禮いたします。

何卒御身お大切に、

何かご御指導願ひ上げます。

かしこ